

24. 食道シンチグラフィの有用性

中西 敏夫 谷口 金吾 伊藤 勝陽
 (広島大・放部)
 春間 賢 (同・一内)

食道運動機能検査法として食道内圧測定, pH モニター等があるが, いずれも比較的苦痛を伴い, 生理的評価としては, 問題がある. 今回, われわれは苦痛なしに生理的に食道機能を評価する方法として食道シンチグラフィの有用性について検討した. 対象はコントロール 14 例, アカラシア 13 例, PSS 4 例, 逆流性食道炎 7 例のほか食道・胃疾患 28 例の計 66 例である. 方法, Tc 185 MBq を含む水 20 ml を合図と共に呑み込み, 関心領域を上部, 中部, 下部食道にとり経時的に 30 秒間データ収集し, 食道通過時間, 90% 排泄時間, 30 秒後の排泄率を求めた. 食道機能異常を認めるアカラシア, PSS, 逆流性食道炎では, 病態を反映した検査結果がえられ, スクリーニング検査として有用な検査法と考えられた.

25. 骨髄シンチグラフィで診断し得た眼窩内髄外造血の 1 例

石根 正博 木村 智樹 高須 深雪
 小林 昌幸 和田崎晃一
 (広島市立安佐市民病院・放)
 瀧本 泰生 奥原 種臣 (同・内)

症例は 68 歳, 男性. 平成 6 年 10 月発症の骨髄増

殖性疾患 (MPD) で SPAC, G-CSF 等の治療により好酸球性・好塩基球性白血病から続発性骨髄線維症へと移行した. 平成 8 年 2 月より左眼球突出が出現. CT, MRI にて眼窩内白血病浸潤 (leukemic cytoma) が示唆されたが, $^{111}\text{InCl}_3$ による骨髄シンチグラフィにて当該部に強い異常集積がみられ, 眼窩内髄外造血巣と診断された.

本例の画像の特徴につき解説し, 若干の文献的考察を加えて報告した.

26. 血小板減少症の副脾検出に $^{111}\text{In-oxine}$ 標識血小板シンチグラフィが有用であった 2 症例

西垣内一哉 菅 一能 清水 建策
 松永 尚文 (山口大・放)
 神崎 竜二 金井 一美 (同・放部)

摘脾後の血小板減少症の原因が残存副脾の腫大や機能亢進と考えられた 2 例を報告した. 1 例では $^{99\text{m}}\text{Tc-phytate}$ で描出できなかった副脾を $^{111}\text{In oxine platelet}$ で描出できた. 摘脾後の副脾検出に $^{99\text{m}}\text{Tc-phytate}$, $^{111}\text{In oxine platelet Scintigraphy}$ が有用であった.

CT 像と $^{111}\text{In oxine}$ 標識血小板 SPECT 像の重ね合わせ画像を作成することにより病巣の解剖学的位置関係が明確にされた.

$^{111}\text{In oxine platelet}$ 標識法を紹介した, 当科では 90% 以上の標識率を得ている.